

時の話題

がんの話題(6)

—がんと久山町研究—

医療法人 幸良会 シーピーシークリニック 武 元 良 整

9月号本誌で(平成18年9月号、75-77ページ)、世界的に有名な久山町研究と胃がんの講演会内容を簡単に紹介いたしました。久山町研究(人口約7000人)の成果は複数の視点で解析され、学術雑誌に毎年10編以上紹介されています。今回はその中から胃がん関連の文献を紹介致します。

がん・大腸・直腸がんそして肝がんは増加傾向、胃がんと膵がんは減少傾向です。ちなみに、2003年の厚労省の全国がん統計によると、がん粗死亡率の第1位は男性では肺がん、女性は大腸がんとなっています。胃がんは男女ともに第2位です。

[30年間で胃がんが最多：図1]

文献1(1996年)によると、1961年から1991年の30年間に438例の「がん」による死亡例がありました。剖検例1250例の9.8%にあたる123例は胃がんでした。最近は肺

[男性胃がんはピロリが関与：図2]

40歳以上、計2602名の統計。男性平均年齢が57歳、女性では59歳。ピロリ菌の有無は血清IgG抗体で判定しました。男性のピロリ陽性は71.5%で、女性の62.5%

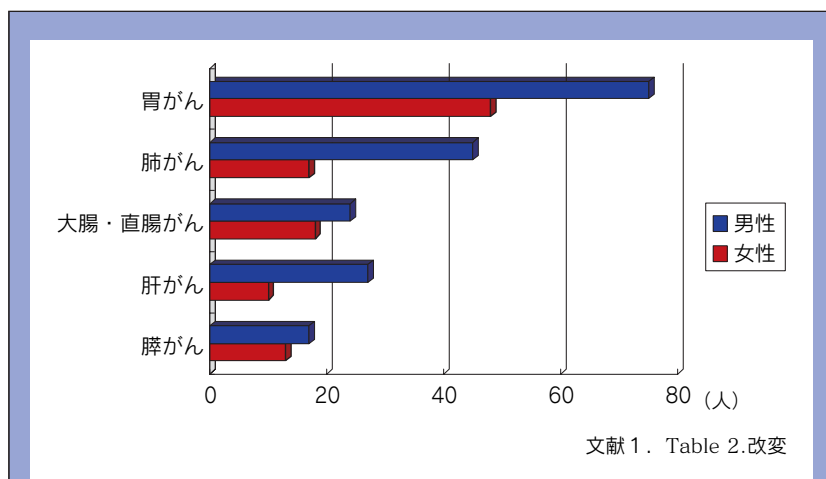


図1. 久山町研究：部位別がん頻度

(1961年から1991年)

よりも有意に高値($P < 0.01$)。9年間の観察後、図2のようにピロリの有無と胃がんの関係は男性において、顕著でした。女性では全く認められませんでした。結局、男性では胃がんの40.1%でピロリ陽性が関与しているという報告です(文献2、2000年)。

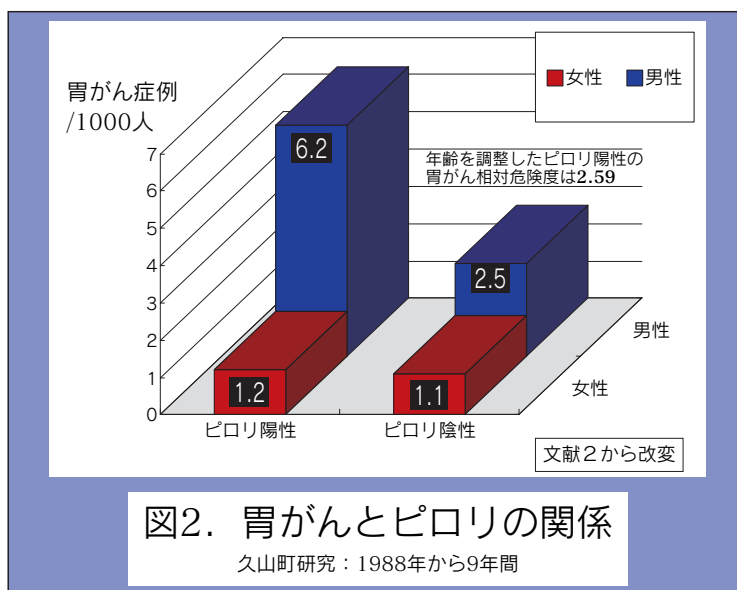


図2. 胃がんとピロリ菌の関係

久山町研究：1988年から9年間

[胃がん頻度と生存率：図3，4]

40年間の久山町研究により、発病頻度は女性でのみ減少してきたことがコホート研究として報告されました(文献3)。図3のように観察期間を3期に分けて10年間の追跡をしています。胃がん頻度は女性が2.0から1.2(人/人口1000人)へと減少しているにもかかわらず、男性では4.3から4.9人と不変です。

胃がんの死亡率は男女とも年々減少

しています(図4)。5年生存率では男性が32.6%から73%へ、女性も43.2%から72.3%と改善しています。要因の1つに早期胃がんとして発見されていることがあります。つまり、1961年から1971年のコホートでは早期胃がんの占める比率は6.1%でしたが、1974年から1984年で42.1%、そして1988年から1998年では61.8%が早期胃がんでした(文献3)。

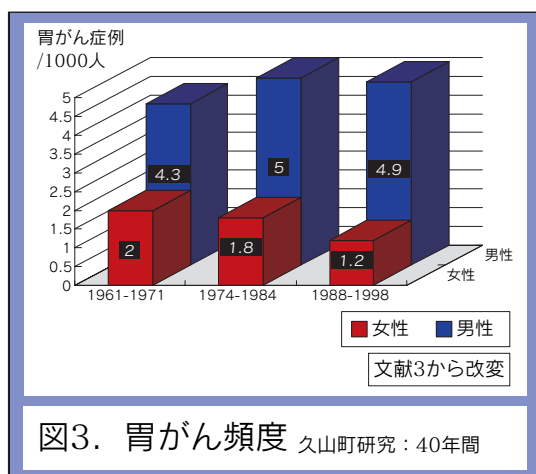


図3. 胃がん頻度 久山町研究：40年間

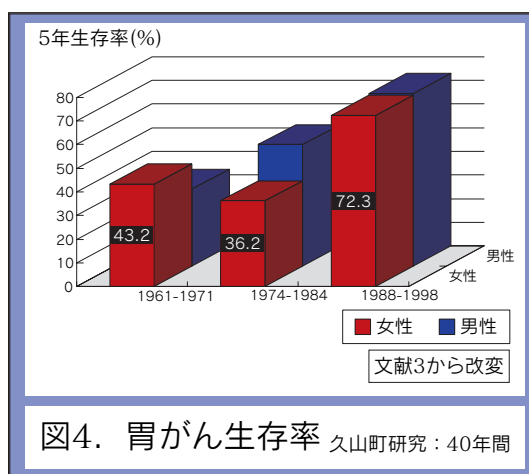


図4. 胃がん生存率 久山町研究：40年間

[胃がんと塩分摂取 : 図5]

食塩摂取量と胃がんとを14年間追跡した結果を紹介します。対象は40歳以上の2476名。観察期間中に93名が胃がんと診断されました。多くの変数(年齢、性別、ピロリ感染、潰瘍歴、萎縮性胃炎、がん家族歴、糖尿の有無、BMI、アルコール量、食事の影響等)を調整して解析すると、食

塩摂取量が1日16g以上の群で胃がんのリスクが高い事が明らかでした。結論として食塩摂取量が多いと胃がんの危険因子となります。さらに萎縮性胃炎とピロリ感染があるとさらにそれが増強される事が示されました(文献4)。

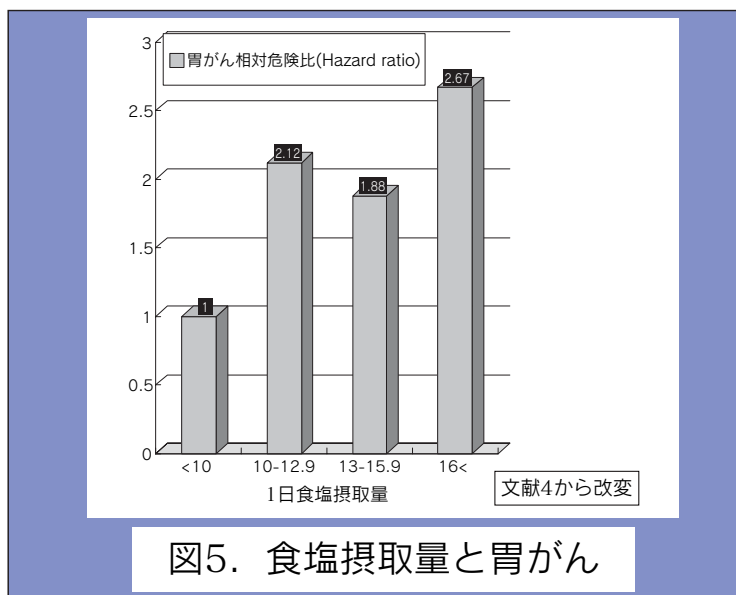


図5. 食塩摂取量と胃がん

文献

1. Nomiya K et al.: Malignant neoplasms in the Japanese community of Hisayama: mortality and changing pattern during a 30-year observation period based on a consecutive autopsy series. J Clin Epidemiol. 1996;49:45-50.
2. Yamagata H et al. Impact of Helicobacter pylori infection on gastric cancer incidence in a general Japanese population: The Hisayama study. Arch Intern Med. 2000;160:1962-1968.
3. Tanaka K et al. Secular trends in the incidence, mortality, and survival rate of gastric cancer in a general Japanese population: the Hisayama study. Cancer Causes & Control 2005; 16: 573-578.
4. Shikata K et al. A prospective study of dietary salt intake and gastric cancer incidence in a defined Japanese population: The Hisayama study. Int J Cancer 2006; 119: 196-201.